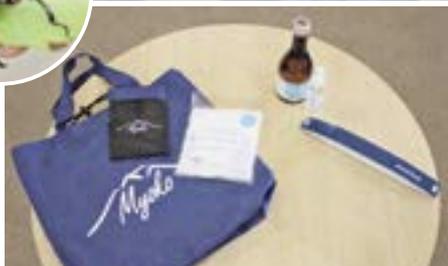


一般社団法人 妙高ツーリズムマネジメント



伝統を守りつつ、新たな観光づくりを目指す



たった1通のメールがきっかけで、今や数百人規模で訪れるようになった香港、台湾からの宿泊客。感染予防グッズは地元企業の技術とアイデアを持ち寄って制作。メディアを通してのPRも積極的に。

一般社団法人 妙高ツーリズムマネジメント

〒949-2106
新潟県妙高市大字田口309-1
TEL: 0255-86-3911
<https://www.myoko.tv>

観光を更に加速する為、妙高市が様々な業種で構成されるDMO「一社」妙高ツーリズムマネジメント」を発足させたのが2018年。そのDMOで民宿経営の傍ら2019年4月から副会長として様々なアイデアを実践されているのが鴨井茂人さん。観光を色々な角度から見る「捉える」事で自分自身に新たな発想を構築したいと大任を引き受けられました。

今回のコロナ禍は妙高にも例外なく多大な影響を及ぼしているとのこと。「ウインターシーズンの妙高と言われますが、グリーンシーズンにも様々な観光客が訪れていました。その中でも中学、高校、大学の合宿が占める割合はかなり高い。しかしコロナの影響で今シーズンは昨年比9割減という大打撃を受けています。」

GoToを利用して宿泊客に独自のクーポン券の発行や地元企業が制作した安全・安心グッズの配布を行うと共に、市内の観光業者に向けても感染防止対策整備の補助を進めています。来年のグリーンシーズンに向けては、団体合宿はもちろん、市民ランナーやグループランナーをターゲットの1つと捉えキャンペーンを予定しているとのこと。

近年増えてきたウインターシーズンの外国人旅行者も今年は見込めない状況。そんな中でも訪れてくれる新たなお客様に対し、伝統を重んじながら観光地も変わっていかねばならないと強く危機感を持っておられる鴨井さん。「情報やニーズが多様化していく中で、従来の観光だけでは生き抜くことはできません。こんな時だからこそ時代に沿ったサービスの提供と戦略的なプロモーションが必要だと考えます。DMOの活動を通じて2次交通の構築や妙高独自のお土産（観光グッズ等）の企

温泉、スキー、登山、ゴルフといった定番に加え、準高地トレーニングやひと足延ばして海釣りも楽しめます。妙高は山の観光地でありながら海にも非常に近いため食文化も多様です。魅力いっぱいの妙高へ是非遊びに来て下さい。



副会長
鴨井 茂人さん

画、販売なども手掛けていきたいですね。」と前向きに語っておられました。
(取材日/8月21日)